

ランピースキン病が国内で初めて発生しました

ランピースキン病は 2019 年以降アジアに発生が拡大し、2023 年韓国で流行していましたが、本年 11 月 6 日福岡県の乳牛飼養農場で国内初となる発生が確認されました。発生すると、有効な治療法がなく、経済的被害が大きい疾病なので、正しい知識を持ち防疫対策を徹底しましょう。

ランピースキン病とは

【原因】

➢ポックスウイルス科カプリポックス属のウイルスで牛、水牛に感染します。人に感染した事例は報告されていません。届出伝染病に指定されています。なお、エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石鹼等一般的な消毒薬に感受性があります。

【疫学】

➢季節的には多湿夏期に多く、節足動物(主にハエ、カ、ヌカカ、マダニ等)により媒介され、感染牛の唾液との接触感染又は唾液で汚染された飼料や飲水の摂取により広がります。感染率は5~45%程度と高いです。一方で死亡率は1~5%と低いです。



【臨床症状】

➢潜伏期は4~14日間で、発熱、食欲不振、鼻漏、流涎、泌乳量の低下、表在リンパ節の腫大が認められ、皮膚及び粘膜に病変が確認されます。皮膚病変は直径 1~8cmの結節になり、頭部、頸部、乳房、生殖器、会陰部に特に確認されます。結節部はその後壊死し、二次的な細菌感染を起こすことがあります。ほとんどの牛は徐々に回復しますが、回復には数か月かかり、皮膚病変によっては1~2年かかるものもあります。



(裏面に続く)

防疫対策は？

👉 飼養衛生管理基準を遵守しましょう。

特に次の5つのポイントについて対応をお願いします。

- ① 飼養する牛に全身の皮膚の結節や水腫、発熱、乳量の低下等本病を疑う症状が見られた場合には、その牛を速やかに隔離するとともに、速やかに家畜保健衛生所まで連絡してください。
- ② 感染した牛の移動により感染拡大するおそれがあることから、出荷及び導入の際には健康状態を確認してください。
- ③ カ、サシバエ、ヌカカ等の吸血昆虫による機械的伝播により感染が成立が成立すると考えられているため、平時から害虫の防除を行うために殺虫剤を散布するなどしてください。
- ④ ウイルスが付着した飼養器具等の持ち込みが感染の原因となる恐れがあるため、他の施設で使用した飼養器具等は原則として農場内に持ち込まないでください。
- ⑤ 血液を介して感染が成立する報告もあることから、注射針、人工授精用器具、その他体液が付着する物品を使用する際には1頭ごとに確実に交換または消毒を実施してください。

不明な点については家畜保健衛生所までお問合せ下さい。

神奈川県県央家畜保健衛生所

県央家保 HP

本所 〒243-0417 海老名市本郷3658

電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

※休日の緊急連絡先（電話）

☎080-3403-0155 ☎080-3403-0157

